

連載企画——音の博物館——

NHK 放送博物館*

福田 勝 (NHK 放送博物館)**

NHK 放送博物館 (図-1) のある港区愛宕は、大正 14 年 7 月にラジオ本放送を開始した場所でもあります。博物館は昭和 31 年 3 月に開館し、昨年 8 月に入館者累計 400 万人を突破しました。放送 (テレビ・ラジオ) の歴史に関する機材や資料など約 2 万点と図書約 7 千点を所蔵し、順次公開しています。

放送の歴史 80 余年の間に技術も大きく進歩してきましたが、マイクロホンやラジオ受信機の変遷によってもそのことを感じられます。

ダブルボタンマイク (図-2)。ラジオ放送が始まった当時に使用されていたマイクで、容器に入ったカーボンの粒が振動板の振動によって抵抗値を変えるのですが、湿気が多い季節にはカーボン粒が湿気って、感度が悪くなるので取り扱いに注意が必要だったようです。

2S-305 型スピーカは NHK のスタジオモニタースピーカとして昭和 30 年代頃からスタジオに導入されたもので、音声マニアにも人気の製品でありました。スタジオで使用されていたもののうち 1 セットを博物館の愛宕山ホールに設置しており、月 1 回のペースで「SP 盤で聴く名歌手」と題し、懐かしい音楽をこのスピーカを通して楽しんで頂いています。

その他にも、歴代のラジオ受信機 (図-3) やマイクロホンなど懐かしい機器を数多く展示しています。また、テレビ放送についても機器や資料を展示していますので、放送の歴史全体を楽しんでいただける博物館となっています。

企画展示やイベントなどの情報はホームページ (URL <http://www.nhk.or.jp/museum/>) でご覧いただけます。ご来館をお待ちしております。



図-1 NHK 放送博物館外観



図-2 ダブルボタンマイク



図-3 懐かしのラジオ受信機

* NHK Museum of Broadcasting.

** Masaru Fukuda (NHK Museum of Broadcasting, Tokyo, 105-0002)